環境・農水常任委員会　県外行政調査

１　調査日　　令和６年 11 月 13 日（水）～11 月 15 日（金）

２　調査の概要

11 月 13 日（水）

（１）九州農政局（熊本市西区）

九州は、人口、土地面積および経済規模において日本の1割程度であることから「全国の1割経済」と言われている中、農業産出額では全国の2割を占めるなど、農業が盛んな地域である。

環境・農水常任委員会は、多様な人材確保へ向けた農業・水産業の魅力発信および県産農畜水産物のさらなる生産・流通・販売促進に向けた取り組みを、重点審議事項としているところである。そこで、今後の委員会審議の参考にするため、九州の農業の全体概要を理解するとともに、滋賀県でも課題となっている農業の担い手不足の問題や、農家の所得向上のための特産品の創出および販売促進の取組等について調査を行った。

11 月 14 日（木）

（２）熊本県家畜市場（熊本県菊池群大津町）

熊本県家畜市場は、平成7年に県内9畜産農協が合併し熊本県畜産農業協同組合が設立された際に、それまで県内各地で開設されていた家畜市場を統合して、熊本の空の玄関口である熊本空港北側に建設され、同年5月から稼動している。交通の利便性が高く、九州内はもとより全国各地から出荷者や購買者が集まり、畜産流通の拠点として高く評価されているところである。

滋賀県の近江牛生産者も本市場で素牛の仕入れ等を行っていることから、今後の委員会審議の参考とするため、子牛の取引の現状について調査を行った。

（３）みやま市バイオマスセンタールフラン（福岡県みやま市）

みやま市バイオマスセンタールフランは、廃校となった小学校跡地を活用して、生ごみ・し尿・浄化槽汚泥から電力や熱を取りだし液肥を生み出す施設である。また、旧校舎を地域住民が集う場所として再生し、液肥で育てた地元農作物の生産販売を推進するなど、資源循環型のまちづくりに取り組んでいる。

滋賀県では、下水道汚泥のリサイクル率向上に努めており、リサイクル率向上の取組の一つとして令和5年度に高島浄化センターでコンポスト化施設を新設し、令和6年度からは汚泥を肥料にして地域住民に販売する事業を始めたところである。そこで、今後の委員会審議の参考にするため、生ごみ等から肥料を生み出す施設の現状や、資源循環型のまちづくり等について調査を行った。

11 月 15 日（金）

（４）トリゼンクオリティオーシャンズ株式会社（福岡県博多区）

トリゼンクオリティオーシャンズ株式会社は、鶏糞を原料として開発した肥料を用いて、底質が悪化した海底や養殖場などの環境改善や、貧栄養状態で育ちの悪い魚介類の成育向上等に取り組んでいる。同社は、持続可能な農業・漁業のために、その土地にすむ微生物の力を活かしながら、生き物にとってよりよい環境づくりを目指しているところである。

滋賀県の琵琶湖では、近年水質が向上しているにもかかわらず、鮎やシジミなどの漁獲量が大きく減少しており、その対策が求められている。原因はさまざまなものが考えられるが、琵琶湖の貧栄養化もその原因の一つではないかとも考えられているところである。そこで、今後の委員会審議の参考にするため、海の環境改善の取組について調査を行った。